

施策番号	449	施策名	公共交通機関の充実	主管課名	まちづくり課
総合計画 体系	政策名	4	快適な生活環境の里づくり	令和 2 年度課長名	小林 英将
	関係課名			シート作成者	柳井 和彦

1. 施策の対象と意図の指標

① 施策の対象(誰、何が対象か)		③ 対象指標(対象の数・規模)		単位	区分	30 年度	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度
ア 町民	→	ア	町民人口	人	見込値			12,143	11,970	11,800
						実績値	12,926	12,754	12,625	
イ 町営・共同バス	→	イ	町営・共同バスの路線数	路線	見込値			5	5	5
						実績値	5	5	5	
ウ	→	ウ			見込値					
					実績値					
② 施策の意図(対象をどうしたいのか)		④ 成果指標(意図の達成度)		単位	区分	30 年度	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度
ア バスを利用してもらう	→	ア	町営バス等利用者数	人	目標値	19,400	19,700	20,000	12,500	12,750
					実績値	13,440	12,380	10,001		
					達成率	69.3%	62.8%	50.0%	80.0%	78.4%
イ バスを利用してもらうために、利用者満足度を上げる	→	イ	町営バスなどを利用した事のある人に関して満足している町民の割合	%	目標値	36.0	37.0	38.0	40.0	42.0
					実績値	46.9	33.0	35.9		
					達成率	130.3%	89.2%	94.5%	89.8%	85.5%
ウ	→	ウ			目標値					
					実績値					
					達成率					
エ	→	エ			目標値					
					実績値					
					達成率					
⑤ 成果指標設定の考え方	ア) 公共交通機関の充実が図られることで、利用者人数が増加すると考えられるため。 イ) 意図に対する直接的な設問であるため。			⑥ 成果指標の把握方法と算定式等	ア) バス利用者実績により把握。 イ) 町民アンケートにより把握。(回答率48.1%)					

2. 施策の役割分担

	① 住民の役割 (自助・共助・協働でやるべきこと)	② 行政の役割 (町・都道府県・国がやるべきこと)
施策成果向上に向けた住民と行政との役割分担	<ul style="list-style-type: none"> 交通機関の重要性、利便性を認識して公共交通機関の利用を心がける。 適正な費用(運賃)を負担する。 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通機関利用促進のための普及啓発。 町民ニーズを的確に判断し、公共交通機関の利便性向上を図るための取組推進。(路線・運行方法の見直しなど) 運行委託事業者に対して、安全な運行の指導を行い、利用者の安全確保を図る。

3. 評価結果

1. 施策の成果水準とその背景・要因		
2 年度の 評価結果	① 成果指標の時系列比較(成果は向上したか? 低下したか? 要因は?) ・バスの利用者数については、年々減少の一途をたどっている。平成22年度の利用者数21,789人をピークに、ここ数年は年間約1,000人のペースで利用者が減少している。令和2年度は新型コロナの影響で前年比2,379人の減となった。また、利用者のお大半が高齢者である中、利用できなくなった人が増える一方で、新規利用者が増加していかないことも要因と考えられる。 ・町民アンケート結果による満足度の割合も年々減少しているが、これについては元年度に中鉄バスを含め大幅な路線変更等を行い、利用者が戸惑ったことなどが影響したものと考えている。	<input type="checkbox"/> 向上した <input type="checkbox"/> ほとんど変わらない <input checked="" type="checkbox"/> 低下した
	② 他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか、低いのか、その背景・要因は?) ・比較データがないため、他団体との比較は難しいが、近隣の津山市や真庭市が策定している「公共交通網形成計画」の資料などで判断すると、津山市内を走っている「ごんごバス」を除きバス輸送人員の推移は減少傾向にある。また、中鉄北部バスについても、年々利用者が減少している傾向にある。	<input type="checkbox"/> 高い水準 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ同水準 <input type="checkbox"/> 低い水準
	③ 住民の期待水準との比較(住民の期待よりも高い水準か、低い水準か、どんな意見や要望が寄せられているか?) 令和2年度、バス利用に関する住民アンケート調査(2,000枚配布で501件の回答:25.1%)を実施したが、バスの利用頻度については、93.5%の方がほとんど利用しないと回答されている。 その反面、バス路線維持に向けた積極的な利用意向については、63.9%の方が「ある」と回答しており、今後の利用意向があるものと想定され、バスは利用していないが、バス運行に対しての関心は、かなりの方が持たれているといった状況といえる。 バスの利便性を高めるよう、各種改善を図っていく。	<input type="checkbox"/> 高い水準 <input type="checkbox"/> ほぼ同水準 <input checked="" type="checkbox"/> 低い水準
	2. 施策の成果実績に対する 2 年度の取り組みや目標達成度 ■ 2 年度の主な取り組みの成果(改革改善した取り組み、目標の達成度は?) ・ごんごバス西循環線の一部鏡野町への乗り入れ運行を継続し、中鉄北部バスの上齋原からプラント5(一部マルナカ)までの間、コミュニティバス方式での運行を行っている。津山方面に向かう時は乗り継ぎは必要となるものの、格安運賃で移動が出来る。 ・乗客の環境改善のため、越畑線(マイクロバス)・中谷線(ワゴン)の車両を新車に更新した。	<input type="checkbox"/> 目標値以上 <input type="checkbox"/> 目標値どおり <input checked="" type="checkbox"/> 目標値以下
3. 施策の今後の課題と改革改善の方向(うまくいかなかった取り組みや事務事業は? その原因は?) ・高齢化によるバス利用者の減少傾向は、当分の間続くものと予想はしているものの、誰もが安い運賃で手軽に目的地に行けるための工夫を行うことで、利用者の増加を図るとともに、満足度を向上させたいと考えている。 ・高齢化と共に「少しでも歩かないでよい形態」や「更なる便数の増加」を求める要望、また、「安い料金で一度バスに乗れば津山市内も含め、目的地まで行ける」等の要望が多い中、一方で、「空バスを走らせるな」といった厳しい意見もある。バスの利便性を高めようとするれば、委託料を含めかなりの財源が必要となるが、公平性という観点も含めれば、必要なだけ財源投入すればよいという問題ではないので、この辺りについても住民の方に理解していただく必要があると考える。		